

人吉・球磨教頭会だより

人吉市立大畑小学校
井口 秀明

1 はじめに

本会は、小学校27校、中学校12校の教頭39人で構成する組織である。

これまで、本会は「郡市の教育発展に寄与すること」「教頭相互の研修と親睦を図ること」を目的に研修の充実を図ってきた。

そのために、年間4回の研修会を行い、その中には郡市の主幹教諭も参加し、職種を超えて人材育成をはじめとした管理職としての資質・能力の向上を図るための研修に励んでいる。

2 組織

会長	井口 秀明	(大畑小)
副会長	小柿 勇	(人吉三中)
副会長	山本 範久	(深田小)
書記	中本 青志	(東間小)
書記	矢野 佳之	(湯前中)
研究委員長	吉川 巧	(山田小)
副研究委員長	中島 公洋	(渡小)
会計	吉田 憲一	(人吉西小)
会計	小西 人美	(相良北小)
監事	米 育史	(黒肥地小)
監事	田山 一美	(錦西小)
監事	橋爪 亮彦	(人吉二中)

3 事業報告

<第1回>令和3年4月30日(金) 中止

- 研究推進の方向性についての確認
- 教頭会組織及び研究体制の決定と確認
- 研修計画の立案及び情報交換

<第2回>令和3年7月6日(火)

- 中止となった第1回の確認
- 下球磨中学校の研究発表進捗状況確認
- 現職研修 「学校におけるカリキュラムマネジメントを推進するかために教頭としてどう関わっていくか」
- ブロック別研修・研究課題、研究内容及びその推進について

<第3回>令和3年11月16日(火)

- 会長講話
- 研究発表進捗状況確認(令和4年度本管内発表がないためなし)
- ブロック研修 各ブロックの研究
- 現職研修「学校におけるカリキュラムマネジメントを推進するかために教頭としてどう関わっていくか」

<第4回>令和4年1月28日(金)

※リモートで実施

- 講話「今、教頭としてどう動くか」
 - ・教頭として心がけておくこと
 - ・教頭として校長を補佐するとは
 - ・教頭としてやるべき職員の人材育成とは
 - ・教頭として大事な能力とは 等
- 講師：前校長 大園 恭幸 氏
国武 靖士 氏
内田 正紀 氏
湊田 康正 氏

- 次年度の現職研修及びブロック別研修について確認

<その他役員会>

年間6回定例役員会及び臨時役員会を2回実施した。

4 本年度の成果

- 本会では、熊本県教頭会研究テーマを踏まえ、本管内研究主題を設定している。その際、管内市町村を4ブロックに分け、実践をとおした研究をブロックごとに行うブロック研修、管内の喫緊の課題に即した現職研修、次年度発表ブロックの支援等を目的とした協働研修を計画した。しかし、新型コロナウイルス感染防止のため、第1回研修会が中止となった。限られた研修会の中で、今日的教育課題の共有及び種々の事例に対応できる教頭としての理解と、実務能力を高めることを目指し、教頭同士のネットワーク構築が推進することができるように研修内容を立案していった。
- 県公立小中学校教頭会研究大会の第1A分科会「教育課程に関する課題」について、球磨中学校の宮川教頭が発表した。リモートでの発表ではあったが、数年ぶりに発表ができた。

5 今後の課題

研究の連続性を高め、さらに、研究の横のつながりを深めることが必要である。会員変更等が現実的になっていること等を、引き継いでいく必要がある。

また、今日的課題に対する研究の必要性はもちろんだが、各教頭の資質向上に資する研究についても必要である。

今後も、これらの課題については継続して取り組みながら、教頭としての資質向上を図る研修の企画・運営に努めていくとともに、教頭同士の連携を図り、教育上の課題に対する研究を進めていきたい。